

輸入は二次合金と合金スクラップ増加

LMエアルミ、中国環境規制の動向などが左右

橋本健一郎氏リポート②

十一月前半は、十一月中旬から本格化する中国での大気汚染対策によるアルミ減産が相場を押し上げることになること、中国国家统计局による十月のPPIは前年比六・九%の上昇で事前予想の六・六%を上回ったこと、十月の中国消費者物価指数は前年比で一・九%上昇、前月の一・六%上昇を上回ったことなどのプラス材料もあったが、一ヶ月の中国の固定資産投資は前年比七・三%増となり、伸び率は一ヶ月の七・五%から鈍化、同期の民間の固定資産投資は五・八%増で、一ヶ月期よりも減速。また中国の十月の鉱工業生産は前年比六・二%増となり、九月の六・六%増からは下回った。十月の小売売上高は前年比一・〇%増で九月の一・〇・三%増を下回ったことを嫌気しLMエアルミ相場はDOWN、十一月十五日時点まで二・〇七八・五ドル(現物後場買い)と月初価格から六六ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は、十月の米消費者信頼感指数が一・九・五と予想の一・二四を大きく上回ったこと、中国の環境規制によるアルミの供給減少予想が相場を下支えするなどのプラス材料もあったが、中国山東省のアルミ製錬メーカーWeiqiaoは冬季減産を免除されており、中国の冬季減産が必ずしも統一されたものではないこと、中国当局の高リスク金融への取り締まりや北朝鮮が弾道ミサイルの発射準備を進めているとの報、を嫌気しLMエアルミ相場はDOWN、十二月二日現在でLMエアルミ(現物後場)二・〇五五ドルと後半スタート価格から三三・五ドルDOWNとしてのスタートとなった。

◆月間のドル/円レート(TTS)
一一四・六〇→一二・八七(円)。
◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比六・四%増の八三万〇、九二〇台であった。
◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比五・四%減の二五万八、一六四台。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比四・八%減の八万三、〇五七戸であった。
◆貿易関連指標
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比六・四%減の八三・二、二次合金が

三〇・九%減の一、〇九六t、スクラップが一・〇%減の一、〇一t、アルミ缶が一〇・三%減の五、四一九t。
輸入
輸入は新地金が前年比二二・九%減の一、〇一七t、二次合金が一七・四%増の一〇万九、五七四t、スクラップが一四・九%減の一、一九t、合金スクラップは七二・一%増の四、一三二t。
■前月の国内指標
日本アルミ・ワム協会発表の庄延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二・九%増の一八万〇、四五四tとプラスに転じた。日本アルミ・ワム合金協会発表のアルミ・ワム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比五・八%増の七万二、六三八tであった。

■概況
【自動車生産】
十月の四輪車生産台数は八三万〇、九二〇台で、前年同月比六・四%増となり、一三カ月連続で前年同月を上回った。
輸出は四万二、二七七台で前年同月比二・九%減。
【自動車販売】
十一月の国内自動車販売台数(軽除く)は二五万八、一六四台で前年比五・四%減と、二カ月連続マイナス。このうち、乗用車五・五%減、貨物五%減、バス二・六%減。
【住宅着工数】
・平成二十九年十月の住宅着工戸数は八万三、〇五七戸で、前年同月比で四・八%減となった。また、季節調整年率換算値では九三・三万戸(前月比二・〇%減)となった。
・住宅着工の動向については、前年同月比で四カ月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに減となった。
・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)
前年同月比では五カ月連続の減少(前年同月比四・八%減、季節調整値の前月比では一・一%減)。
(貸家)
前年同月比では五カ月連続の減少(前年同月比四・八%減、季節調整値の前月比では五・五%減)。
(八面へ続く)

(四面より続く)

(分譲住宅)

前年同月比では二カ月連続の減少(前年同月比四・八%減、季節調整値の前月比では二・〇%減)。

・分譲マンション

前年同月比では二カ月連続の減少(前年同月比一六・九%減)。

・分譲一戸建住宅

前年同月比では先月の減少から再びの増加(前年同月比五・〇%増)。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

生産は前年比五・八%増の七万二、六三八tと二カ月ぶりプラス。出荷は五・一%増の七万二、四〇六tと二カ月ぶりプラス。このうち、出荷先別では、鋳物三・〇%増、ダイカスト六・一%増、板〇・五%減、押出二・七%増、鉄鋼八・六%増、合金地金メーカー二・一%増。

【アルミ圧延・押出品生産数量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二・九%増の一八万〇、四五四tとプラスに転じた。

このうち、板類は生産がプラスに反転、出荷は三カ月ぶりにプラス。押出類は生産、出荷ともに一二月月連続でプラス。

【輸出】

アルミ新地金が前年比六〇・四%減の八三t、二次合金が三〇・九%減の一、〇九六t、スクラップが一・〇%減の一、〇一一t、アルミ缶が一・〇%減の五、四一九t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比二二・九%減の一、一〇七t、二次合金が一七・四%増の一〇万九、五七四t、スクラップが一四・九%減の四一九t、合金スクラップが七二・一%増の四、一三二t。

【見通し】

・自動車は生産が六・四%増。国内販売台数が前年比五・四%減。生産が一三カ月連続プラス、販売が二カ月連続マイナス。

今後続くか注意が必要。

・住宅着工の動向については、前年同月比で四・八%減と四カ月連続マイナス。下げ傾向かどうか今後の動向に注目。

・アルミ圧延・押出品生産数量

板類・押出生産合計は前年比二・九%増の一八万〇、四五四tと、プラスに転じた。

今後プラスが続くかの動向に注目。

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績

生産は前年比五・八%増の七万二、六三八tと二カ月ぶりプラス、出荷は五・一%増の七万二、四〇六tと二カ月ぶりプラス。プラスが続くか今後の動向に注目

・アルミ輸出は自動車生産の好調を受けて全体的に減少、アルミ缶も韓国輸出の減少から。

・アルミ輸入は自動車生産の好調から二次合金及び合金スクラップは増加。その他は減少。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、自動車生産などに比べて自動車販売、住宅着工が不調だが、ここ最近のLME価格の高止まりを受けて輸入塊が高止まりし市中玉は不足気味ではないか。

需要面に関しては自動車の生産は好調だが、販売は二カ月連続で減少、LMEアルミが二、〇〇〇〜二、一〇〇ドル近辺と一〇〇ドル程度低迷が続いていることや、為替が一・一〜一・二円台と一・二円程度円高に振れている事、年末休業の関係から高買いはしないのではないかと。

【価格・為替予想】

今月は来年に向けての中国環境規制の動向や北朝鮮問題に左右される。

来年に向けての中国環境規制の動向に関しては、雑品の輸入禁止やPM_{2.5}抑制のための生産禁止、抑制がさらに厳しくなるのは間違いないが、一方で建築に関しても規制がでるとの情報もある。

北朝鮮問題に関しては中国の仲裁も空しく、再び北朝鮮がICBMを発射、それに対抗する形で米国の最大規模の軍事演習を行うなど解決の目途は立っていない。

それらを踏まえた十二月のLMEアルミ価格は、中国が環境規制で建築などの需要に向けての規制を行わず、北朝鮮が追加的な軍事的アクションを起こさなかった場合、先月一段高値の二、一〇〇ドルを予測。いずれの場合も二、〇〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合、先月安値の一、九〇〇ドル。

為替は、前記材料から円安値は九月後半安値の一・四円。円高値は一・一円(TTM)台を予測。

スクラップ購買価格に関しては〇・五円高程度と予測している。